

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 富野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

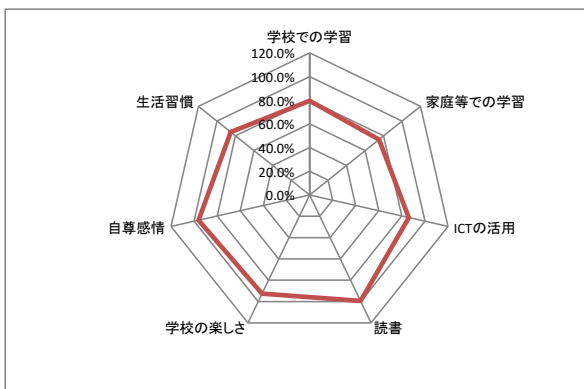
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力を問う内容の問題が全体的に低く、中でも「書くこと」の部分がとても低い。そのため、記述式の問題の正答率が落ち込んでいる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題	
	努力が必要な問題	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する問題、場面と場面、場面と描写などを結びつけて、内容を解釈する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に低い傾向にあるが、特に「図形」、「関数」の領域が顕著である。思考力・判断力・表現力の問題が低いため、記述式の正答率も低い。また、短答式の正答率も低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	反例の意味を理解している問題	
	努力が必要な問題	簡単な連立二元一次方程式を解く問題 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているか問う問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱とする領域の正答率が低い。国語、数学に比べ、知識・技能の問題が弱い傾向にある。短答式の正答率は全国に比べ高いが、記述式の問題の正答率は低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと動きを分析して解釈できるかどうかをみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間以外の1日あたりの勉強時間は昨年に比べ大幅に増えている。</li> <li>・1日当たりの読書の時間は減少したが、読書が好きな生徒は全国よりも上回っている。</li> <li>・スマホ・携帯電話を2時間以上使用している生徒の割合は増加している。</li> <li>・自分にはよいところがあると思っている生徒の割合は、昨年に比べ僅かではあるが増えている。しかし、全国と比べるとまだまだ低い。自尊感情の低さがうかがえる。一方、人に役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合は全国の値に近いくらいに増えている。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

国語に関しては、1年を通して行っている、天声人語の視写を行い、読んだ内容について感想を書くことで、考えをまとめる力や書く力を身につけさせる取り組みを引き続き行いたい。また、数学、理科に関しては、総合的な学習の時間や帰りの会の時間を利用して、基礎学力を身につけさせるため、習熟度別の学習などを取り入れ、学力の向上を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭では、学習時間とスマートフォン・携帯電話の使用時間が反比例している状況にあるので、徐々に学習時間が増え、スマートフォン・携帯電話の使用時間が減っていくように、通信等を利用して保護者に協力を願うようにする。また、朝食を摂ることや睡眠時間の確保など生活習慣が確立していない生徒も多いため、時間を守ることも含めて、学校で呼びかけていきたい。